

(発行 : 2017 年 8 月 1 日)



8月9日 (水) ラジオ深夜便 午前4時台

「釜石艦砲体験者・千田 ハルさん取材記」

東北新幹線を、新花巻で釜石線に乗り換えて、およそ1時間半。車窓からの眺めが、不思議な世界に誘われていく列車の旅となりました。遠野までの風景は、宮沢賢治の世界なのです。山は丸く穏やかで、のどかな気分になりました。遠野を過ぎると、突然がらりと景色が変わり、山は急峻、トンネルが多く、14まで数えたのですが、、いつの間にか製鉄の町、釜石に到着しました。この町が、昭和20年の夏、終戦間際、2度も連合軍の大艦隊の艦砲射撃を受けた町とは、全く知りませんでした。

きっかけは今年3月に、岩手県滝沢市で開かれた映画「クワイ河に虹をかけた男」の上映会でした。

実行委員の一人、箱石邦夫さんの著作「艦砲を見た峠」だったのです。急峻なトンネルの山は、仙人峠と言われる難所だったのです。

艦砲射撃の恐ろしさから夜を徹して逃れた人達、老人も小さな子供も必死に山を越えた所だったのです。

当時、製鉄所に勤務していた千田ハルさん(93)は、昭和22年、同人誌「花貌」を仲間とともに立ち上げ、日本が二度と戦争を起こさないことを願い、釜石艦砲の体験者の証言を記録し、伝えてきました。柔らかなことばの中に、一言、一言がとても重い言葉でした。

放送は、長崎原爆の日、8月9日です。この日は、釜石艦砲の2回目の攻撃の日なのです。

<http://www.nhk.or.jp/shinyabin/program/2b2.html>

《編集室から》

☆ 米加訪問先で仲間と共にハソウを吹き、大きな反響を呼びました。

<https://www.youtube.com/watch?v=m4jFcF3CS0o>

・ ミニハソウ「平安」を米加訪問記念で60個制作。希望者に頒布中。1個3,000円

<http://eec-2020.com/maituki/hasoushiori.pdf>

・ ハソウの申し込みは編集室：高館千枝子まで tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

